

平成29年度

科目名	教職論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 授業のねらいは、教職についての基本事項(教職の意義、教員の役割等)を把握し、現行教員養成制度の原理とその課題について理解し、それに対応する力を身につけ、自らが教育の専門職としての教師像・観を形成できることを到達目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また現役の教員をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。</p>			
達成目標	<p>①教職の意義や教師の役割、責務をどの程度理解できたのか。 ②教師に求められる資質能力を理解し、己の教師観を確立することができたか。 ③現代の教育課題について理解することができたか。</p>			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価方法	試験(70%)、レポート(20%)、授業参画度(10%)	
教科書	佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房 2015年			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	<p>月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>			
自学自習	<p>事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと(1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ(1時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス 2. 教師の影響力を考える
2	ドラマの中の教職観と理想の教師像	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習者にとっての理想の教師像 2. テレビドラマから見た理想の教師像 3. ドラマ教師の条件
3	体験の中の教職観と理想の教師像	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師像をめぐる問題 2. 日本の伝統的な教師像 3. 教師観の変遷から見た理想の教師像
4	教職の意義	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職とは何か 2. 教職の意義
5	教師と教員養成の歴史	<ol style="list-style-type: none"> 1. 師範学校における教員養成 2. 戦後の教員養成制度 3. 教員免許制度改革の動向―「学び続ける教師」―
6	教員の任用とサービス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の配置と任用 2. 教員の身分と任用 3. 教員のサービス 4. 身分保障と分限・懲戒 5. 勤務条件
7	教師の役割と仕事(1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の法的役割と役割意識 2. 教師の仕事の特質と内容
8	教師の役割と仕事(2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の仕事の実際 2. 生涯学習社会における教師への期待
9	管理職・主任の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校長の役割と権限 2. 副校長・教頭の役割のリーダーシップ 3. ミドルリーダーの機能 4. 管理職試験
10	教師の職場環境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の勤務実態 2. 教師の悩みと不満 3. 学校での人間関係 4. 教師のライフサイクル
11	専門職としての教師	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の資質・能力 2. 他業種との比較からみる専門職としての教師
12	教師の資質向上と研修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の力量形成と研修制度 2. 教員免許更新制度
13	教育実習の意義と心得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義 2. 教育実習の心得 3. 学習指導案と授業の実際
14	教職への進路選択と教員採用選考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進路選択 2. 教員採用試験の実態 3. 教員採用試験の傾向と対策
15	面接・模擬授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 面接対策 2. 模擬授業

科目名	教育原理 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世, 佐久間 邦友			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の資格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。</p> <p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>			
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになったか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 1年 2単位 選択	成績評価 方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価は本授業満点100点のうち10点。 ②学期末筆記試験結果は、100点の内80点。 この2つの総合点に、授業中の真摯さや積極性が見られた学生には加算する。他方、欠席等が多い場合やレポート提出のない学生には、総合点から減点措置をとる。	
教科書	特に指定しない。 しかし、毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布するので、授業内容を忘れるということは決してない。それらを順序良くファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。 尚、次の、参考書の欄を参照のこと。			
参考書	①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世共編『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数ある。いずれにしても、授業中に教えます。			
学生への要望	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望</p> <p>教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがああり、先ずそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。</p> <p>授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上を決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。 			
オフィスタイム	<p>随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。</p> <p>石堂：ishidoh@koryama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koryama-kgc.ac.jp メールですぐに返事を出します。その折、面談可能な日時や面談場所について明示します。</p>			
自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は「予習」となる。授業後の内容再理解の「復習」は重要で、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	「学校」という空間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷
12	生涯学習社会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状
13	教育改革の背景と実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の学校を取り巻く状況の変化 2. 教育改革の過程 3. 教育改革とアクター
14	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の貧困
15	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の多忙化 2. モンスターペアレント 3. 授業後半のまとめ

平成29年度

科目名	教育心理		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	前期			
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。			
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 家政学部 人間生活学科建築デザインコース2年 家政学部 食物栄養学科 2年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やアクションシート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はない。			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
オフィスタイム	金曜日 2限 835 3限 835			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学(1)	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学(2)	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学(3)	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考(1)	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考(2)	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学(1)	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学(2)	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学(1)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学(2)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学(3)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学(1)	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
14	アドラー心理学(2)	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

平成29年度

科目名	教育方法論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政 学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	山上 裕子		
開講期	後期		
授業概要	教育の方法は、学ぶ者や学ぶ内容に関連する生きものである。それゆえに、生徒の成長を考えた学びをどう実現させるか、教師は何かできるのか、と問い続ける必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びとなるような授業が求められている。本講義では、授業を考えるための基礎となる、教育の方法の歴史、教育課程の意義及び編成、教育機器の効果的な取扱いについて取りあげる。また、毎回授業開始時に現代的課題についてプレゼンをおこない、更に模擬授業をおこなうことをとおして、授業を実践的に考える活動を取り入れていく。		
達成目標	①教育の方法の歴史をとおして、それぞれの方法の教育的意義を理解できたか。 ②教育課程の意義を理解し、編成の留意点を理解できたか。 ③現代的課題を視野に入れて、望ましい授業の在り方を考えることができたか。 ④教育機器の操作をとおして、効果的な使用方法について理解することができたか。		
受講資格	教職課程履修者	成績評価 方法	平常点(30点)、レポート(20点)、テスト(50点)
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領』(平成20年版)		
参考書	古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、2013年。 佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 適宜、資料を配布する。		
学生への要望	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00~12:50 金曜日 12:50~14:20 833研究室		
自学自習	事前: 次回の授業内容を、毎回確認すること。現代的課題について、プレゼンの準備を進めておくこと。 事後: 学んだ内容について、ノートを整理すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。授業を構成する三要素について知る。
2	教育の方法の歴史①	近代以前の学びの方法について知るとともに、『世界図絵』をとおして教科書の役割について考える。
3	教育の方法の歴史②	近代学校教育の設立とともに一斉授業のシステムが開発されたことを知り、一斉授業の長所・短所を考える。
4	教育の方法の歴史③	教育の方法のシステム化に対して、人間の本性を尊重した新教育の登場を知り、ルソーおよびペスタロッチの方法原理を学ぶ。
5	教育の方法の歴史④	デューイの問題解決学習について学ぶとともに、教えるべき内容を教えていないという批判があることを知る。
6	教材の開発	モンテッソーリやフレールが開発した教材・教具を体験することとおして、教育目的にかなった教材開発の意義を理解する。
7	教育の方法と教育課程	授業の方法は授業内容と関係があることを理解し、教科カリキュラム、経験カリキュラム、コアカリキュラムなど、カリキュラムの分類を学ぶ。
8	教育課程の編成の意義と『学習指導要領』の変遷	『学習指導要領』の変遷を知り、教育課程を編成することの意義を探る。
9	教育課程と授業	現行の『学習指導要領』を読むことをとおして、具体的な授業の方法を考える。
10	教育機器の使用①	パソコンやタブレットなど、近年導入が進んでいるが教育機器を使用した授業事例を知る。
11	教育機器の使用②	教育機器を使用したミニ授業を経験する。
12	教育機器の使用③	ミニ授業をとおして、教育機器の使用の効果的な使用の仕方を学びあう。
13	教育機器の使用④	ミニ授業をとおして、教育機器の使用の意義を理解する。
14	教育方法の評価	授業や教育課程の多様性に応じて、評価も多様なものがあることを学ぶ。
15	授業とは何か	これまで学んできたことから、望ましい授業についてまとめる。

平成29年度

科目名	特別活動論		対象 単位数 必選
担当教員	折笠 国康		
開講期	前期		
授業概要	本講義では、学習指導要領における特別活動の位置づけを基に、昨今の学校現場での現実や特別活動に関する課題を理解することを目的とする。また、本講義を通して特別活動の望まれる姿や教師の指導のあり方についての考察を行うことも重要な目的とする。		
達成目標	①学校教育における教科外活動の意義と目的を理解する。 ②生徒をとりまく環境の実態を把握し、特別活動に求められるものを理解する。 ③理論を基にした学級経営の手法やアセスメントについて理解する。		
受講資格	中学校教諭の教員免許の取得を目指す学生	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。授業の時に資料を配布する時がある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要する。 専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	金曜 2限 835 3限 835		
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 特別活動とは	この授業の目的と授業方針を理解する。特別活動とは何か、基礎的知識を理解する。
2	教育課程と特別活動 学習指導要領について	学習指導要領の変遷を通して、各時代における学校にかかわる問題について考え、理解する。
3	学校の現実 (1) 学力や学級の現実	客観的なデータに基づき、現在の学校の現実について理解する。主に学力や学級の状態についての理解を深める。
4	学校の現実 (2) 生徒の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の現実について理解する。主に生徒の生活の様子や実態についての理解を深める。
5	学校の現実 (3) 家庭や地域の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の現実について理解する。主に家庭環境や地域の実態についての理解を深める。
6	特別活動の実際(1) 学級のアセスメントⅠ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
7	特別活動の実際(2) 学級のアセスメントⅡ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
8	特別活動の実際(3) 生徒指導	学校で行われている生徒指導の実際や今後望まれる方向性などについて、客観的なデータや資料に基づいて理解する。
9	特別活動の実際(4) 特別支援と生徒指導	特別支援教育の在り方や基礎理解、実際の生徒指導場面での問題や課題などについての理解を深める。
10	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(1)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
11	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(2)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
12	アクティブラーニングと学級集団	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
13	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(2)	記憶と学習などに関わる基礎的な理論について理解する。人間のやる気にかかわる「動機づけ」の基本的な仕組みについて理解する。人間の自ら学ぶ意欲の発達を理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論などの概略を理解する。
14	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(3)	目的論的思考と決定論的思考の対比や、アドラー心理学の自己や他者理解の視点を理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、特別活動の基礎知識と実際の活動を理解する。

科目名	生徒指導論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政 学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉 コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間 生活学科 3年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世		
開講期	後期		
授業概要	<p>生徒指導とは、学校教育において全教職員が関わる校務のひとつであり、時代によってその名称は変化し、その内容にも若干の変化があった。先ず、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、その後で、歴史的展開の中での生徒指導の機能と意味を把握する。さらに、いじめや不登校、そして問題行動や非行が話題となってきた20世紀末から、生徒指導はその意味合いを、問題行動の予防と対策に重点化してきていること、そこで、どのような問題や課題が子どもたちを取り巻いており、どのような指導・対応が望まれるのかを学ぶ。</p> <p>また、これと合わせて、進路指導や教育相談の仕事についても、生徒指導の一環であるという認識のもとに。理解を深めていく。最終的に、教員になった場合に、子どもたちの実態についてたじろぐことなく、問題行動の予防と対処に、教職員間で協働して進めていけるよう、実践的理解を深めていきたい。</p> <p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと運動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと運動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 3年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 必修 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 3年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択 1年 2単位	成績評価 方法	レポートを2、3回とり、発表させる。さらに学期末の筆記試験がある。レポート20%、学期末試験80%で、総合点を出し、授業への取り組みが積極的な場合はそれに加算し、これと反対の場合は総合点から減点する。
教科書	・文部科学省『生徒指導提要』 ・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。		
参考書	無数にあるので、授業中にその都度紹介する。 尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。		
学生への要望	<p>授業に際しては、</p> <p>①授業中に飲食をしない。机の上に飲食物を出しておかない。</p> <p>②レポートは必ず指定の日までに提出する。</p> <p>③指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。</p> <p>④他人の発表内容を傾聴し、質問等をして理解を深める。</p> <p>⑤毎回の授業で何かしら「なるほど」と理解を深め、楽しく授業を 聴き、自分を高めていくこと。</p> <p>⑥授業で配布されるプリントを「レジュメ」という。すべてのレジュメを順序よく1冊のファイルに綴じて、教科書として使用すること。</p>		
オフィスタイム	月曜・金曜以外の日、授業・会議のない日ならいつでも来室（創学館5階副学長室）可能です。原則、アポを以下のメールでとること。 ishidoh@korivama-kgc.ac.jp		

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	導入 本授業の構成・計画について理解する	・本授業の目標と、15回分の授業内容構成について、理解する ・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
2	生徒指導の意味と位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出したレポートについて4名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。 1、部活での指導をよくして下さった先生、2、進路や悩みで個人的に親身に相談に乗って下さった先生、3、授業のうまい先生、4、学級を甦らせた先生、といったタイプが抽出される。 ・教師のこれらの指導力を、生徒指導の仕事と関連づけてみる。 ・「教員の主な仕事」（学習指導・特別活動・生徒指導・学校運営と担当校務分掌・研究と研修）を内容を含めて理解したうえで、 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。
3	生徒指導の意味の歴史の変遷1	<p>生徒指導の意味と用語は、日本独自である。その歴史の変遷と意味の変遷を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1期 初等教育に始まる訓育としての生徒指導 「小学校生徒心得」（明治11年）、合わせて「小学校教員心得」（明治14年） 修身の授業が第一主要科目でもあり、命令と服従の関係で成り立った教育 2 第2期 中等教育における職業指導としての生徒指導 大正時代から昭和初期 「児童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ関スル件」（昭和2年） 但し、訓育的生徒指導は併せて続行：「児童生徒ニ対スル校外生徒指導ニ関スル件」（昭和7年） <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の占領下で、生徒指導がガイダンスとして普及したときの理念を学ぶ。 ・終戦直後の第一次少年非行の波の到来、第二次、第三次、そして第四次といわれる今日まで、少年の検挙数は減少しているが、問題行動の凶悪化がみられるようになった過程を捉える。 ・生徒指導に関わりある教育領域として、道徳教育の時間や総合的な学習の時間等との関係を理解する
4	生徒指導の意味の歴史の変遷2	<ol style="list-style-type: none"> 3 第3期 戦後の生徒指導 ガイダンス、カウンセリングの導入 アメリカ型生徒指導の普及。『児童の理解と指導』『中学校・高等学校の生徒指導』（昭和24年）等で「生活指導」の用語登場。 他に、『山びこ学校』発刊で集団指導、集団づくりの教育実践が起こる。 4 第4期 凶悪化した問題行動・非行対策としての生徒指導 文部省『生徒指導の手引』（昭和40年） 5 第5期 いじめ、暴力、不登校の常態化における生徒指導期 地域全体の問題解決体制のしくみと生徒指導の刷新 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）発刊の背景について
5	生活綴り方運動からみた生活指導（生徒指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の中にある山村の生活を直視させる指導から起こった生活指導 ・児童生徒の自主的な生き方を開発した作文指導 ・社会の矛盾への目を開かせた教育実践運動
6	生徒指導の歴史の変遷の総括	<p>生徒指導の意味と構造の確認 ①訓育的心構え→②進路指導（中等教育）→③生活綴り方運動という生徒指導→④ガイダンス→⑤教育相談→⑥キャリア教育→⑦規範教育 すなわち、1980年代以降の社会変化と児童生徒の問題行動・非行への対策と健全育成へ（予防・事件解決・事後指導）</p>
7	子どもたちの問題行動と背景にある社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・学級崩壊から、いじめ、暴力、殺人、万引き、麻薬使用、不登校、引きこもり、長期欠席等の実態を、統計その他の資料を使って客観的に分析する。 ・社会の変化を考察する。 特に2000年以降、激化してきた変化は何かを調べる。 ①情報化や消費文化中心の生活、科学技術の高度発展とそれに反比例しての「こころの荒れ」 生産・労働から遠ざかりがちなニート、フリーター型の生き方にみられる先進国共通の社会的変化と子ども・青年への影響 ②少子化、母親の就業の一般化、祖父母との別居の一般化、近隣の大人たちの子どもたちへの子育てに無関心、虐待をする親、逆にモンスターペアレンツといわれる理不尽な親たちの出現と、親による学校や教師攻撃の増加など、日本の家族形態の変化と子どもへの影響
8	逸脱行動について先行学説から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの社会学者デュルケムは、19世紀末に「犯罪」を研究し、「犯罪は時々の社会にとって不可欠の機能を果たしている」と主張することで、犯罪というレッテルを張られる行為は必ずしも悪とはいえず、逸脱行為というもの、その社会の規範、考え方、慣習から外れただけの行為である場合があるために、犯罪には正常性も含まれるという考え方を提起し、科学的な社会病理学の先鞭をつけたこと。 ・1938年に、アメリカの社会学者ロバート・キング・マートンが、それまでのアメリカ社会病理学に対して、逸脱行動（deviant behavior）という用語を定着させた論文「社会構造とアノミー（異常行動）」を発表し、その後のシカゴ学派などによる逸脱行動研究の流れを用意したこと。
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省が平成22年に刊行した『生徒指導提要』の発刊の意図を認識し、本書を手掛かりにして今日の児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）へのあり方を体系的に学ぶ。 ・児童生徒の問題行動を統計値から認識する ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』全4冊や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や多機関連携についての知識を深める。
10	子どもの規範意識とその芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導とは、非行を予防し、発生したら対処するというだけでなく、子どもたちに規範意識を育むことを前提としている。 ・公共性や奉仕の精神は、どのような学習や活動から生まれ育つのであろうか。 「子どもは本来純粋で、善である」とは、フランスの18世紀の思想家、ルソーの見方でもあるが、社会がそうした環境を作り上げていないような場合にはそうした性向の自発的発生は期待できにくい点 学校のカリキュラム編成や諸領域を活用して、規範意識をめばえさせる日常的な教師の指導体制について考えてみる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	学校の「抱え込み」から開かれた「連携」へ	近年の問題行動の背後には子供の意識と行動の質的变化が加わっており、子どもの心理面に関する専門的な判断の必要性が求められる。さらに、内容・程度が一定の限度を超える問題行動の発生など、学校だけでは対応できない新たな問題が増えてきている。 したがって、学校には、学校内ですべての問題を解決しようとする「抱え込み」意識を捨て、周囲の人々や関係機関と協同して事態に当たる姿勢に転換することが文科省からも強く勧告されている。 関係機関とは、教育委員会であったり、警察であったり、児童相談所であったり、市役所であったりする。学校が抱え込みをやめるという勧告は、平成10年から出され、問題行動への新たな対応となった。 連携に関する関係資料をひも解きながら、この施策の先行例を学ぶ
12	学校・家庭・地域の連携協力の推進	児童生徒を非行・犯罪から守り、人として・社会人としての規範意識を身につけさせるためには、学校内だけの努力では十分ではなく、学校と関係機関との連携ということが重要である。学校は、子どもの問題を抱え込んで処理しようとして苦しんだり、事態を大きくさせてしまったりしないように、他の関係機関と連携し力を借りることが、事態の早期解決や再犯防止につながる。これについて、関係通達、教育支援活動促進事業等を確認し、さらに、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の具体的取り組みを調べる。 最後に、文部科学省の提唱する「地域の核としての学校」という新たな未来の学校像から、生徒指導の総合的意義を再確認する
13	連携がかたちだけのものに終わらないために：実例研究	<ol style="list-style-type: none"> 1 大津市の中2いじめ自殺事件が教えること <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを見つめる目、教育委員会の指導姿勢 ・連携のシステムの形骸化を回避する ・学校と警察との連携協力システムから大津市の「あすなる」の組織化と落とし穴 ・教育委員会の機動性を見直す：教育委員会はどのように学校と密接な関係をとるか。横浜市の教育委員会の対応システムの事例に学ぶ。 2 担任とくに生徒指導主事の人間力と有り方、校長の生徒指導に対する姿勢 <ul style="list-style-type: none"> いじめを児童生徒から撤退させた教師の成功例に学ぶ。 ・担任の教育愛と人間性が教室でのいじめを一掃させた事例 ・暴力で荒れ果てていた中学校を一新させた新任校長の実践事例に学ぶ
14	子どもの「サインを見逃すな」	問題行動に至らせない指導体制 問題はなぜ発生するのか→問題はどうに現れるのか→児童生徒は何に悩んでいるのか→問題行動に潜む心理 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレスを知る ・ストレス反応にはどのようなものがあるか ・児童生徒のストレスに対応できる教員の指導にはどのようなものがあるか ・立ち直った生徒の事例
15	子どもの問題行動に対応する学校と地域社会・関連諸機関の連携	最近の児童生徒の問題行動の背景と対応の事例研究 <ul style="list-style-type: none"> —変化した家庭・親の増加と実態のなかで、教師、学校の在り方を考える— ・学校内対応・学校内生徒指導の仕組みの研究：「生徒指導基本方針」の作成と共通理解 ・学校と地域の連携：地域の人材活用 ・学校と関係機関（教育委員会・警察・児童相談所等）との連携の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・総括に代えて：地域を挙げての問題行動防止の体制<事例研究>

平成29年度

科目名	教育相談論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家 政学部 人間生活学科 2年 1単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	後期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①悩みを抱える児童・生徒に寄り添いながら問題解決をする「カウンセリングマインド」の基本理念を理解する。 ②子どもの成長や発達を支えるスタンスを学び、教師が行う教育相談とは何かを学修する。 ③子どもを取り巻く社会の諸問題（時事問題）について事例やトピックを取り上げ、支援のあり方を考える。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教員として、カウンセリング・マインドを基礎とした教育・支援の理念を持ち、また児童生徒との信頼関係を築けるような関わり方がイメージできるようになる。</p> <p>【履修カルテの評価観点】</p> <p>①教育相談と生徒指導の違い、教師が行なう教育相談と専門機関との違い、保護者や子どもへのかかわり方などについて、どの程度理解できたか。 ②教育相談における行動変容のプロセスと、カウンセリング・マインドについてどの程度理解できたか。 ③子どもを理解するためのキーワード（発達課題、いじめ、虐待、発達障害等）について、どの程度理解できたか。</p>			
受講資格	「教職課程」受講者	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%） 授業態度・発言や発表の内容（25%）	
教科書	「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著 三省堂 2010年発行 1980円			
参考書	授業の中でテーマ別に提示する。			
学生への要望	教師をめざす学生、とは言え、どちらかというと児童・生徒の気持ちのほうがよくわかる…そんな今だからこそ、（子どもとして自分が求めている）支援者としての教師像を追求してもらいたと思います。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	<p>事前学習：テキストを読んで、わからない用語は調べておくこと 。グループで調査をする際には、テーマについてなるべく深く掘り下げ、テーマをよく絞り込んでいくこと。 事後学習：授業で出てきた重要キーワードは必ず覚え、参考文献を読んで補足をノートにまとめる。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と目標、評価ポイント、授業ポリシーについてのガイダンス。「心に残るあの先生」を振り返る

平成29年度

科目名	栄養教育実習 I	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 1単位 選択
担当教員	亀田 明美		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①栄養教育実習の目的や心構えを確認する。 ②学習指導案の作成や模擬授業等の体験を通して必要な実践力を修得する。 ③実習後の報告会により教育現場への理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>栄養教育実習を充実させるための事前指導と学びを進化させるための事後指導の構成になる。事前指導では、栄養教育実習の目的や心構えを確認し、学習指導案の作成や模擬授業等の体験を通して必要な実践力を修得する。事後指導では、報告会を行い、相互の体験の交流により、教育現場への理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。</p>		
受講資格	教職課程（栄養教諭）履修者	成績評価 方法	①模擬授業・プレゼンテーション 80点②授業態度 20点
教科書	よくわかる栄養教諭 同文書院		
参考書	食に関する指導の手引 -第一次改定版- 文部科学省 東山書房 学習指導要領		
学生への要望	栄養教育実習に向けて万全の準備で臨み、実習後はその経験を活かし教員として相応しい資質を身に付けること。		
オフィスタイム	水曜2限目・4限目（給食管理研究室）		
自学自習	事前学習：模擬授業の指導案及び、使用する教材等を作成し、模擬授業に臨む。 事後学習：模擬授業で明らかになった課題を修正し、指導案を改善する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育実習オリエンテーション	実習の目的、心構え、準備等について、栄養教育実習日誌を配布し確認する。また、実習日誌の記入方法、自己評価等についても確認する。
2	実習の準備1	学校の組織、栄養教諭の職務内容を確認する。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の各領域について学習指導要領を基に、学校の実態に応じた指導計画が学年ごとに組まれていることを理解する。
3	実習の準備2	小学校低学年・中学年・高学年、中学校の授業例を提示し、授業全体の流れや発達段階に応じた指導方法について確認する。
4	実習の準備3	実習校の児童生徒の実態をできる範囲で把握し、実習校の課題により指導案を作成する。作成した指導案や媒体、板書計画等が児童・生徒の実態や発達段階にあっているかなどの教材研究をする。
5	実習の準備4	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。
6	実習の準備5	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。
7	実習の準備6	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。
8	まとめ	実習で得た学びや気づき、今後の課題をまとめて発表し、自らの教育実習を振り返る。

平成29年度

科目名	栄養教育実習Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 1単位 選択
担当教員	菊池 節子			
開講期	通年			
授業概要	<p>教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や児童生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。 			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や児童生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や児童生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。 			
受講資格	今年度「栄養教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点（100点）とする。教員採用試験未受験は－10点とする。	
教科書	栄養教育実習書			
参考書	事前指導の際に連絡する。			
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。			
オフィスタイム	<p>月曜Ⅰ限（8:50～10:20） 水曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：No.1調理学研究室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にskikuchi@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>			
自学自習	<p>事前学修：当日の実習内容をよく確認しておくこと。（60分） 事後学修：その日の実習を踏まえて、授業準備や課題に取り組むこと。（60分）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備
2	オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録
3	現場実習	実習校での現場実習
4	現場実習	実習校での現場実習
5	現場実習	実習校での現場実習
6	現場実習	実習校での現場実習
7	現場実習	実習校での現場実習
8	現場実習	実習校での現場実習
9	現場実習	実習校での現場実習
10	現場実習	実習校での現場実習
11	現場実習	実習校での現場実習
12	現場実習	実習校での現場実習
13	現場実習	実習校での現場実習
14	現場実習	実習校での現場実習
15	教育実習成果報告会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決

科目名	教職実践演習（中・高）		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択
担当教員	菊池 節子			
開講期	後期			
授業概要	<p>授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。</p> <p>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項</p> <p>①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解する。</p> <p>2. 社会性や対人関係能力に関する事項</p> <p>②児童生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培う。</p> <p>3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項</p> <p>③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「児童生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助についても学ぶ。</p> <p>4. 食に関する指導力に関する事項</p> <p>④小学校、中学校において食に関する指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高める。</p>			
達成目標	<p>授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。</p> <p>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項</p> <p>①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。</p> <p>2. 社会性や対人関係能力に関する事項</p> <p>②児童生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。</p> <p>3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項</p> <p>③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「児童生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。</p> <p>4. 食に関する指導力に関する事項</p> <p>④小学校、中学校において食に関する指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。</p>			
受講資格	栄養教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	外部講師の講演を受けてのレポート（担当 佐久間）：10点 ×2回＝20点 「食に関する指導力」（担当 菊池）：30点 「特別支援教育」（担当 佐久間）：10点 「附属高校の訪問報告書」（担当 佐久間）：10点 「コミュニケーション」（担当 折笠）：20点 「まとめ」の領域における評価（担当 菊池・佐久間）：10点 合計100点	
教科書	授業の際に、配布する「教職実践演習ノート」。			
参考書	授業の際に、各担当教員より配布される。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
オフィスタイム	水曜Ⅱ限（10：30～12：00） 水曜Ⅳ限（14：30～16：00） 場所：No.1調理学研究室 そのほかの時間帯の希望も含め、事前にskikuchi@koryama-kgc.a.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分） 事後学習：授業を踏まえて、課題に取り組むこと。（60分）□			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	①履修カルテの整理をすすめながら、これまでの教職課程における学びを振り返る。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法の説明 担当：菊池節子 佐久間邦友
2	気になる子の理解と対応について	元郡山養護学校校長先生による講演 担当：ゲストスピーカー 渡邊世子氏 佐久間邦友
3	福島県における教育の現状・課題としての教師の役割	福島県教委指導主事による講演 担当：ゲストスピーカー 福島県教育庁主任指導主事 佐久間邦友
4	「特別支援教育」の現状と課題	福島県内特別支援学校教員による講演 担当：ゲストスピーカー 2名 佐久間邦友
5	附属高校訪問と講話	附属高等学校を訪問し、講話をいただく。 担当：ゲストスピーカー 2名 佐久間邦友
6	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
7	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
8	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表①～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：難波めぐみ 佐久間邦友

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 研究授業指導案の改善と発表② ～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：難波めぐみ 佐久間邦友
10	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い① ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
11	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い② ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
12	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い③ ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
13	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ～美術～	美術の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：黒沼令 佐久間邦友
14	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い② ～音楽～	音楽の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：磯部哲夫 佐久間邦友
15	まとめ	授業の総括を行う。当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：菊池節子 佐久間邦友

平成29年度

科目名	教職キャリアデザイン I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/ 家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	後期			
授業概要	教職キャリアデザイン I は、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方法を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成る。また、12月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、短大1年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点による「認」評価	
教科書	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。 担当：佐久間
2	教育原理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
3	教育法規	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。 担当：佐久間
4	教科別指導①	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
5	教科別指導②	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
6	教科別指導③	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
7	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：小林
8	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：折笠
9	教育時事	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
10	模擬試験	模擬試験の受験体験をする。 担当：佐久間
11	模試フォローアップ	模擬試験を振り返るとともに、克服すべき点を確認する。 担当：佐久間
12	小論文	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。 担当：小阪
13	個人面接	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
14	集団討論	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	採用試験の申込について	採用試験の手続き、提出書類について知る。 担当：佐久間

平成29年度

科目名	教職キャリアデザインⅡ		対象 単位教 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	前期			
授業概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。また、4、5月に行われる模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、キャリア形成の一助となるようにした。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、短大2年生、卒業生を対象とする。	成績評価方法	平常点により「認」評価。	
教科書	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 担当：佐久間
2	模擬試験	模擬試験を経験することによって、現在の実力を知る。 担当：佐久間
3	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、自身の弱点を知り、更なる勉学の進展を図る。 担当：佐久間
4	小論文	自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：小阪
5	特別支援教育	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：小林
6	教育原理	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：佐久間
7	教育法規	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：佐久間
8	教科別指導①	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
9	教科別指導②	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
10	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
11	模擬試験	模擬試験の経験をおとして、現在の実力を知る。 担当：佐久間
12	教育時事	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：佐久間
13	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、弱点をチェックする。 担当：佐久間
14	個人面接	自己をPRする力をつけるとともに、教職への意識を高める。グループで結論を導き出す体験をおとして、討議の力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	集団討議	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をおとして、他者と討議する力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛